

Developing Future Global Leaders 将来のグローバル・リーダーを育てる

2 014年11月15日、日米学生会議の設立80周年を記念して、祝賀会が開かれた。日米間で学生の運営する交流プログラムとしては最も歴史のある会議である。祝賀会には、高円宮妃殿下を始め、両国政府高官、数多くの同窓生が、この卓越した会議の歴史と遺産を讃えるために出席した。本会議は、1934年に、当時悪化する両国政府の関係を危惧した学生たちが、日米間の理解と友情を深めようと理想に燃えて設立したものである。残念ながら、実際には、この7年後に日米は宣戦布告し、戦争に突入することとなった。

日米学生会議は、数多くの著名な同窓生を輩出している。アメリカからは、ヘンリー・キッシンジャー元国務長官が、ハーバード大学の学生であった1951年に参加。日本の同窓生の中には、故宮澤喜一元首相が、東京帝国大学の学生時代、1939年と1940年に参加している。

1992年1月8日、東京でのジョージH.W.ブッシュ大統領歓迎の晩餐会で、宮澤喜一元首相は、1939年に南カリフォルニア大学で開催された日米学生会議に出席し、その際2つ「手に入れた」ものがあると言っている。第一は、アメリカの民主主義についての理解。アメリカの学生が自国のアジア政策を平気で批判するという自由で開放的な空気は宮澤元首相に強い印象を与えた。第二に「手に入れた」ものは、となりに「座っている妻」。ロサンゼルスに向う船の中で津田塾大学の学生と出会い、東京大学を卒業し、大蔵省入省後に、結婚したとの話だった。日米学生会議では、同様に結婚したカップルが多く、「日米結婚会議」と呼ばれていた時期もあったほどだった。

筆者自身も、宮澤氏同様に、スタンフォード大学の学生の時に、1970年のスタンフォードでの会議に出席し、そこで出会った女性と、1971年の東京での会議も一緒に出席し、1972年の秋に結婚した。日米学生会議への出席が、私達二人の人生に大きな影響を及ぼした。



GLEN S. FUKUSHIMA

グレン・S・フクシマ

米国先端政策研究所 (CAP) の上級研究員。米国通商代表部の日本・中国担当代表補代理、エアバス・ジャパンの社長、在日米商工会議所会頭等を経て現職。米日カウンシルや日米協会の理事を務めるなど、日米関係に精通。

その後、私はハーバード大学大学院で日米関係について学び、1985年に米国通商代表部に入省したが、その15年も前に日米学生会議で日米交渉の雰囲気を知り、日米両国での長年の友人を得ることができ、幅広い同窓生ネットワークに入ることも出来た。日本政策投資銀行社長、元富士銀行頭取で、日本日米学生会議同窓会会長の橋本徹氏も敬愛する同窓生の「先輩」である。

日本が世界に貢献するためには、理想主義、現実主義、グローバルなマインド・セットを兼ね備え、多様な個人やグループと一緒に成果を上げられるリーダーの育成が不可欠である。日米学生会議の4週間にわたる

質の高い経験により、大学生はスキルや能力を伸ばすチャンスを得られる。議論や討論のトピックは、タイムリーかつ重要であり、参加者は多様な背景を持つ学生と切磋琢磨し、相互理解を図る。そして、会議の運営自体が学生に任されていることから、プログラムの成否は学生自身の責任となる。

日米学生会議が重要な役割を果たしてきたことから、バラク・オバマ大統領と安倍晋三首相は、2014年4月25日の日米首脳会談後の共同声明の中で、日米学生会議を「不可欠な」二国間の交流プログラムであると讃えた。

2015年は、第二次世界大戦終結から70周年の節目の年となる。この記念すべき年を祝うために数多くの催しが行われる。そこで大切なのは、1945年以前に、何が起きて何が起こらなかったかを議論することではない。重要なのは、この70年間に日本が国際社会で建設的な役割を果たしてきたことと、今後どんな役割を果たせるかということだ。日本が将来もグローバルな役割を果たすことができるか否かは、大志を抱き、優秀な能力を持つ次世代の日本のリーダーにかかっている。そのためには、日米学生会議を始めとするグローバルリーダーシップ養成プログラムを支援することで、現在のリーダーが、今後のリーダーとなる若者を育成することも必要ではなからうか。F